

「日々の理科」(第 3156 号) 2023, -3, 28

「フクロウの産卵を確認 (1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

北軽井沢の山荘の裏庭は、カラマツとアカマツの森で、広さだけは自慢できる。沢の上にある台地のような地形なので、野生動物にも好まれていて、今までにもさまざまな動物に出会ってきた。



カモシカは裏庭で何度か目撃した。カモシカは警戒心が強いが、ヒトと目が合うと微動だにしない。俗に「アオの寒立ち」と呼ばれる行動だ。初夏には、目の下の臭腺を樹木や枝にこすりつけて、縄張りを主張する行動も見られる。



「ニホンジカ」もよく現れる。お尻の毛が白いので遠くからでも見分けがつく。



ヒトの子どももよく現れる。この友人一家(4人きょうだい)は、裏庭のアスレチックが大好きで、山荘に来ると一日何回も遊んでいる。



アスレチックのそばのカラマツの幹には、フクロウ専用の巣箱を設置してある。内部の天井には赤外線カメラもあり、インターネット経由で千葉県にあるサーバーに24時間映像を保存している。



長らくムササビの「昼寝用」に占拠されていた巣箱だが、3月下旬になって、本来の主が毎日のように現れるようになった。産卵・営巣が期待される行動だ。